

年 間 授 業 計 画

	教科名	単 位	学 年	科 目 名	担 当 者 氏 名
学校必履修	国語	4(2)	3	現代文B	杉田真紀子 雨海利行

1) この講座のねらい (目標)

優れた文章を読みこなし、それを通してよく考え、更には考えたことや自分の気持ちを文章化する。読解力や語彙力等を身につけ総合的な国語力を向上させ、入試レベルに対応できるようにする。

2) 授業の概要

評論、小説の読解を中心に授業を進める。

評論では、テキストを読み、筆者の一番言いたいことを把握し、そのことについて自分でも考え、それらを自分の言葉で表現する。

小説の読解では、文章を形象化できるように心がける。登場人物の心情や思考を丁寧に読み解き内容を把握する。優れた表現にも留意する。

授業時に漢字の小テストを実施する。

受験に役立つ学習も適宜取り入れる。

3) 授業を進める上での留意点

① 教授者として心がけること

生徒の理解を確認する時間を設けながら授業を進める。ポイントが分かるように板書にも工夫する。教科書の内容だけでなく理解を補うための具体的な事例、身近な用例、関連作品などを紹介する。発展的な内容にまで生徒の理解を高めるために、難易度の高い学習も要求する。

② 生徒に求めること

事前に教材を必ず通読してくる。読めない漢字、語句の意味は自分で辞書を引いて調べる。自分で考えて、それを自分の言葉で表現する。文章を正確に理解し、考える力をつけること。

4) 教科書・副教材

教科書：精選現代文B (筑摩書房)

副教材：入試頻出漢字 TOP2500 (いいずな書店)

副教材：現代文読解基礎ドリル (駿台文庫)

5) 評価の観点と方法

評価の観点…評論では論理展開や要旨を、小説では人物、情景、心情などを的確にとらえているかどうか。また、自分で考え、自分の言葉で表現することができているか。語句の意味を正確に理解し、漢字の読み書きがきちんとできているか等、様々な観点から評価する。

評価の方法…定期考査・授業での発言内容・提出物の状況・漢字小テスト等を総合的に判断し、現代文演習あと合算して評価する。単位認定は現代文4単位として行う。

学期	月	配当時間	単	元	学	習	項	目	学	習	内	容
----	---	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

一 学 期	4	4	小説	水かまきり 川上弘美	小説に絵が描かれる人間の感情と現象の背景を、小説の展開に沿って整理する。
	5	6	評論（三）	日本文化私観 坂口安吾	論の展開を意識して作者の主張を理解する。文化の観点・近代の観点から自身の考えを深め、論理的に考察する。
	6				
	7	15	小説	舞姫 森鷗外	文語体で書かれた文章を読み、登場人物の心情を把握する。
二 学 期	9	4	評論	虚ろなまなざし 岡真理	論の展開を意識して作者の考えを読み取る。生命と環境を自分に関わることとして捉え、自分自身の考えを深め、論理的に考察する。
	10	10	評論	身体この遠きも 鷺田清一	筆者の主張を、論理展開に沿って把握する。
	11				
	12	6	評論	リスク社会とその希望間 大澤真幸	社会とリスクの分節化について考察を深める。
三 学 期	1	2		入試問題演習	私立大学の過去問を使った、問題演習とその解説を行う。

年間授業計画

学校必履修 (文系・理α)	教科名	単位	学年	科目名	担当者氏名
	国語	4(2)	3	現代文B(演習)	森脇 洋介

1) この講座のねらい(目標)

3年生を対象に、多様な現代文の幅広い読解・文章構造の理解と演習・記述問題の解法を身につけることにより、総合的な国語力の育成と共に、大学入試の「現代文」にも対応できる読解力向上を目標とする。

2) 授業の概要

- ・「イラストとネットワークで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版」の小テストを週に一回実施する。
- ・基本は演習形式である。評論と小説を中心に、現代文の問題を基本的なものから応用的なものまで取り組み、設問の解き方を体得させる。
- ・状況に応じて実際の大学入試の過去問も解き、現代文の読解力と解答力のさらなる向上を目指す。

3) 授業を進める上での留意点

① 授業者として心がけること

- ・計画的な家庭学習の重要性を認識させながら進める。
- ・文章を正確に解釈し、根拠を明らかにして解答できるよう指導する。
- ・入試頻出の語句や漢字の重要性を認識させる。
- ・決められた時間の中で、本文を正確に読んで内容を把握し、解答できるよう指導する。

② 生徒に求めること

- ・今後の人生において豊かな言語生活を営むために、語彙を増やし読解力を高める。
- ・予習・復習を必ずやり、疑問を解決するよう努める。
- ・問題文の要約をし、理解を深める。
- ・自らの目標を設定し、計画的な家庭学習をする。
- ・時間を決め、集中して問題に取り組む。(2学期以降)

4) 教科書・副教材(ノートや辞書と共に毎回持参すること)

- ・「改訂版 プロGRESS〈読解・論点・探究〉現代文総演習 発展編」(いいずな書店)
- ・「改訂版 大学入学共通テスト実践演習 論理・文学編」(数研出版)
- ・「イラストとネットワークで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版」(いいずな書店)
- ・「大学入試 国語対策知識問題演習 <共通テスト・私大対応>」(桐原書店)

5) 評価の観点と方法

- ・漢字や語彙、文学史の重要事項を正しく理解したか。
- ・文章の内容や構成を理解できるようになったか。
- ・筆者の主張や登場人物の心情を適切に読み取り、根拠をもって解答できるようになったか。
- ・定期考査、小テスト、平常点(出席状況・授業態度・提出物など)を総合的に判断し評価する。
- ・評価は、教科書内容の現代文授業と合算して出す。単位認定は合計4単位の現代文として行う。

6) その他

- ・授業計画は学習状況のみて変更することもあります。
- ・学習に対する態度や授業中の積極性を高く評価したいと思います、意欲的な授業姿勢を期待しています。

学期	月	配当時間	単元	学習項目	学習内容
一 学 期	4	5	評論 評論	日本のデザイン 原 研哉 「本当の自分」の現象学 山竹伸二	【問題演習について】 ・制限時間内で解くことによって、集中力と緊張感を高める。 ・通読して本文の構造と全体の要旨をつかむ。 ・設問を見て、解答と関連する箇所を確認する。 ・自分なりの根拠を持って選択肢を選ぶ。 ・記述解答を設問の要求に応じて正確に書く。 ・解答の根拠を確かめる。 ・採点して客観的に学力を確認する。 【評論】 ・筆者が述べている事実と意見が区別できるように読み進める。 ・述べられている意見の根拠を探しながら読み進める。 ・結論部分をつかむ。 ・様々なテーマの評論を読むことで、視野を広げて教養を高めていく。 【小説】 ・登場人物の心情を理解する。特に心情変化を読み取る。
			小説 評論	裸の王様 開高 健 コミュニケーションという方法論 大井 玄	
	5	6	評論	科学は今どうなっているのか 池内 了	
			小説 評論 随想 評論	犀鳥 遠藤周作 「正義」 内山 節 ひとり遊び 河野裕子 感性は感動しない 榎木野衣	
	6	8	評論 小説 評論 随想	異文化理解 青木 保 汚点 井上ひさし 歌よみの眼 馬場あき子 わたしはなぜ旅に出るか 四方田犬彦	
			評論	中世的世界とは何だろうか 網野善彦	
			小説 随想	風味絶佳 山田詠美 随想 天地有情 南木佳士	
	7	4	評論	ネーションとステートの間で 山崎正和	
			評論	キャベツ人形の資本主義 岩井克人	
			評論	感覚の幽い風景 鷺田清一	

二 学 期	9	6	評論 評論 評論 詩・随想	感想 小林秀雄 科学・技術の歴史のなかでの社 会 村上陽一郎 伝統と創造 梅原 猛 新傾向23 植物はなぜ動かな いのか 稲垣栄洋 新傾向24 ぼろぼろな駝鳥 高 村光太郎 山猫 中野重治	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係や人物の置かれている背 景をつかむ。 ・どのような言葉でどのように表現 されているかつかむ。 ・表現の方法が何をねらいとしてい るか考える。(例えば比喩など) ・小説を読むことで想像力を高め て、自身の心情を豊かにしてい く。 ・その作者が書いた他の作品にも 関心を持って、読書の幅を広げ る。 【随筆】 <ul style="list-style-type: none"> ・評論の論理的読解と小説の心情 読解を応用して内容理解に努め る。 【文学史】 <ul style="list-style-type: none"> ・高校国語で身に付けておくべき 一般的教養として随時触れる。 【漢字・語彙】 <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト活用によって基礎語彙 力の定着
	10	8	評論 論理的文章 論理的文章 文学的文章 文学的文章	新傾向25 近現代日本史と歴 史学 成田龍一 イスラーム世 界史 後藤明 メディア・リテ ラシー 菅谷明子 著作権2.0 名和小太郎 江戸の妖怪革命 香川雅信 文学的文章 紙／永遠の百合 吉原幸子 羽織と時計 加能作次郎	
	11	8	論理的文章 論理的文章 論理的文章 文学的文章 論理的文章 論理的文章	うしろめたさの人類学／熱帯の 贈与論 松村圭一郎／奥野克巳 生命の内と外 永田和宏 住居空間の心身論 狩野敏次 杏っ子 室生犀星 きみは、もう若くない 長 野まゆみ 夏の影 連城三紀彦	
	12	4	論理的文章 論理的文章 文学的文章	リスク化される身体／知識の委 譲とリスク社会 美馬達哉／紀 平知樹 樹の鏡、草原の鏡／日本の音 武満 徹／小泉文夫 白鳥 三島由紀夫	
三 学 期	1	2	過去問演習	過去問演習	

年間授業計画

学校必履修 (文系)	教科名	単位	学年	科目名	担当者氏名
	国語	4(2)	3	古典B	雨海利行

1) この授業のねらい (目標)

- ・第2学年での学習をもとに、古典を読解する能力を深める。
- ・古典作品読解のために必要な言語事項・有職故実の理解ができるようにする。
- ・古典作品を通して日本の伝統文化について考え、現代にも通じる人間の生き方や精神についての考察を深められるようにする。

2) 授業の概要

- ・「授業のねらい」に即して、講義形式と自学形式と発表を織り交ぜて行う。
- ・辞書を活用し、自ら読解・鑑賞する。
- ・古文読解に必要な文法を学習し、知識を身につける。
- ・文学史や時代背景の学習も行い、作品理解の助けとする。
- ・古文読解に必要な古語の語彙力をつける。
- ・漢文読解の基礎知識を復習し、鑑賞する。

3) 授業を進める上での留意点

- 授業者として心がけること
- ① 正確な音読をもとに、古文や漢文のリズムを体得させる。
 - ② 古文単語および文学史の小テストを行い、基礎事項の定着をはかる。
 - ③ 副教材を活用し、文法を意識した口語訳をさせる。
 - ④ 助動詞・助詞の意味と用法の理解・定着をはかる。
 - ⑤ 古典に親しみ、教養を深める。

生徒に求めること

- ① 予習として次のことを行うこと。
 - ・音読をし、読めない文字を確認しておく。
 - ・原文をノートに書写しておく。
 - ・単語の意味を辞書で調べておく。
 - ・自分で一通り口語訳をしておく。
 - ・漢文は書き下し文にし、一通り口語訳をしておく。
 - ・毎回の課題に取り組む。

② 自宅学習をしっかりと行い小テストに取り組む。

4) 教科書・副教材

- 教科書：精選古典B 改訂版 (筑摩書房)
 副教材：新版五訂完全マスター古典文法 (第一学習社)
 古文単語 330 (いいずな)
 文学史 SPEED 攻略 10日間 (Z会)
 古典文法 10題ドリル古文基礎編 (駿台文庫)

5) 評価の観点と方法

- 観点
- ・予習・復習を行い、積極的に授業に取り組んでいるか。本文を正確に理解し、作品を鑑賞することができるか。
 - ・古文に関心を持っているか。・古語の習得ができているか。・口語訳が正確にできるか。
 - ・助動詞をはじめとした文法の識別ができるか。・作者や登場人物の心情を理解できているか。
- 方法
- ・定期考査、小テスト、提出物、授業態度を総合的に判断し評価する。



学期	月	配当時間	単元	学習項目	学習内容
一学期	4	6	物語	ガイダンス 『平家物語』	年間の授業について説明する。 ・古典の文章を味わう。 ・文法事項を確認、反復練習する。 ・作品成立の時代背景を確認する。 ・作品の成立について確認する。 ・登場人物の心情を理解して読解する。
	5	6		日記	
	6	10			
	7	4			
二学期	9	6	物語	『源氏物語』	・古典の文章を味わう。 ・文法事項を確認、反復練習する。 ・作品成立の時代背景を確認する。 ・作品の成立について確認する。 ・登場人物の心情を理解して読解する。
	10	8			
	11	8	随筆	『枕草子』	
	12	6			
三学期	1	2	評論	共通テスト対策・私立大過去問題	・古文の今までの知識をふまえ、語句の意味を正しくとらえながら文脈に沿って正しく読解する。 ・問題を解きながら、伝統文化を感じる。

年間授業計画

東京都立本所高等学校

	教科名	単位	学年	科目名	担当者氏名
学校必履修 (文系)	国語	4(2)	3	古典B(演習)	川崎 一奈

1) この講座のねらい (目標)

- ・ 2学年までの学習をもとに、古文・漢文を読解する能力をさらに高め、入試にも対応できる実力を養う。
- ・ 古典作品読解のために必要な言語事項の理解ができるようにする。
- ・ 作品を通して日本文化について考えて古典の教養を身に付け、現代にも通じる人間の生き方や精神についての考察を深める。

2) 授業の概要

- ・ 基本は演習形式である。古文の問題を基本から応用まで取り組み、設問の解き方を体得させる。
- ・ 古典の読解に必要な古語の語彙力や文法を学習し、知識を身につける。
- ・ 文学史や時代背景の学習も行い、作品理解の助けとする。
- ・ 状況に応じて実際の大学入試の過去問も解き、古文の読解力と解答力のさらなる向上を目指す。

3) 授業を進める上での留意点

① 授業者として心がけること

- ・ 決められた時間の中で、文章を正しく解釈し、根拠を明らかにして解答できるよう指導する。
- ・ それぞれの問題のポイントとなる文法事項を重点的にわかりやすく説明する。
- ・ 必要に応じてプリント学習や小テスト(古文単語や文法)等も行う。
- ・ 生徒の理解状況を把握しつつ授業を進める。
- ・ 計画的な家庭学習の重要性を認識させながら進める。

② 生徒に求めること

- ・ 「学ぶ意欲」を持って授業に臨むこと。
- ・ 時間を決めて取り組み、集中力を高めること。
- ・ 必ず復習し、疑問を自分で解決するよう努めること。
- ・ 計画的な家庭学習をすること。
- ・ 継続的に学習する習慣を身につけること。

4) 教科書・副教材(ノートや辞書と共に毎回持参すること)

よむナビ古典3演習編(いいずな書店)
 大学入学共通テスト実践演習 古文・漢文編<改訂版>(数研出版)
 SPEED 攻略>国語文学史(Z会出版)
 Key&Point 古文単語 330(いいずな書店)
 完全マスター古典文法(第一学習社)

5) 評価の観点と方法

- ・ 古典に関心を持っているか。 ・ 古語や文法が習得できているか。 ・ 口語訳が正確にできるか。
- ・ 登場人物の心情や物語の場面が把握できるか。 ・ 根拠をもって解答できるようになったか。
- ・ 定期考査、小テスト、平常点(出席状況・授業態度・授業中の発表など)を総合的に判断し評価する。
- ・ 評価は、教科書内容の古典授業と合算して出す。単位認定は合計4単位の古典として行う。

6) その他

- ・ 授業計画は学習状況をみて変更することがある。

学期	月	配当時間	単元	学習項目	学習内容（文法事項等）
一 学 期	4	5	歌物語 俳文 随筆 説話	伊勢物語 鶉衣 鈴屋集 十訓抄	解法の基礎 用言（動詞・形容詞・形容動詞） 助動詞①（自発・可能・受身・尊敬・使役） 助動詞②（打消・過去・完了）
	5	6	随筆 評論 物語 物語 物語	徒然草 無名草子 義経記 源氏物語 栄花物語	助動詞③（推量・打消推量・推定） 助詞①（格助詞・接続助詞・係助詞） 助詞②（副助詞・終助詞） 敬語① 敬語②
	6	8	日記 日記 評論 物語 説話 歴史	蜻蛉日記 弁内侍日記 風姿花伝ほか 兼好諸国物語 撰集抄 春秋左氏伝	識別①「なり」「なる」 識別②「に」 識別③「る」「れ」 私大型入試問題演習 共通テスト型入試問題演習 再読文字
	7	4	文章 思想 文章	大学衍義補 墨子 広陽雑記	否定 使役 受身
二 学 期	9	6	思想 漢詩 文章 文章	孔子家語 猫に贈る・猫苑 黄州快哉亭記 蒙求	疑問・反語 漢詩 限定・累加 比較・選択
	10	8	文章 思想 思想 歴史物語 擬古物語 説話	前戯録・搜神記 荀子 韓非子・「彼」 栄花物語 山路の露 十訓抄	仮定・抑揚 私大型入試問題演習 共通テスト型入試問題演習 共通テスト過去問題 共通テスト過去問題 共通テスト対策問題
	11	8	歌論 日記 歌文集 説話 歌論・伝記 物語 歌論	歌の大むね とはずがたり 鈴屋集（複数箇所） 三国伝記 西行上人談抄・梅尾明恵上人伝記 狭衣物語 桂園遺文	共通テスト対策問題 共通テスト対策問題 共通テスト対策問題 共通テスト対策問題 共通テスト対策問題 共通テスト対策問題 共通テスト対策問題
	12	6	漢詩・思想 文章 史伝 注釈書・漢詩 文章	欧陽文忠公集・韓非子 墨池記 三国志 三体詩素隠抄・黄鶴楼 潜研堂文集	共通テスト過去問題 共通テスト過去問題 共通テスト対策問題 共通テスト対策問題 共通テスト対策問題
三 学 期	1	2	総合問題演習	入試過去問題演習	文法・敬語・和歌・文学史 長文読解

年間授業計画

東京都立本所高等学校

	教科名	単位	学年	科目名	担当者氏名
自由選択	国語	2	3	古典総合	久保田 有里子

1) この講座のねらい (目標)

- ・ 古典の基礎を学び直し、読解力を身につけ、入試に対応できる力を身につける。
- ・ 作品を通して日本文化について考え、現代にも通じる人間の精神についての考察を深める。

2) 授業の概要

- ・ 古典作品読解 説話・随筆・物語・日記などを読解し、古典文学の特色を体得する。
- ・ 文法指導 用言を基本に助動詞を学び、語の識別問題等に対応できる力を養う。
- ・ 語彙力伸張 重要古語を習得し、読解の基礎を養う。
- ・ 入試問題演習 新テストを踏まえた問題や私立大学の問題などを解き、実践力を養う。

3) 授業を進める上での留意点

① 授業者として心がけること

- ・ 決められた時間の中で、文章を正しく解釈し、根拠を明らかにして解答できるよう指導する。
- ・ それぞれの問題のポイントとなる文法事項を重点的にわかりやすく説明する。
- ・ 必要に応じてプリント学習や小テスト（古文単語や文法）等も行う。
- ・ 生徒の理解状況を把握しつつ授業を進める。
- ・ 計画的な家庭学習の重要性を認識させながら進める。

② 生徒に求めること

- ・ 「学ぶ意欲」を持って授業に臨むこと。
- ・ 時間を決めて取り組み、集中力を高めること。
- ・ 必ず復習し、疑問を自分で解決するよう努めること。
- ・ 計画的な家庭学習をすること。
- ・ 継続的に学習する習慣を身につけること。

4) 教科書・副教材 (ノートや辞書と共に毎回持参すること)

- リテラ古文2 (文英堂)
- 助動詞ライトノート 徒然草で集中トレーニング (尚文出版)
- 徒然草による用言ノート (尚文出版)
- 体系古典文法 (数研出版)
- 見て覚える読んで解ける古文単語 330 (文栄堂)
- トータルサポート新国語便覧 (大修館書店)

5) 評価の観点と方法

- ・ 古典に関心を持っているか。 ・ 古語や文法が習得できているか。 ・ 口語訳が正確にできるか。
- ・ 登場人物の心情や物語の場面が把握できるか。 ・ 根拠をもって解答できるようになったか。
- ・ 定期考査、小テスト、平常点 (出席状況・授業態度・授業中の発表など) を総合的に判断し評価する

6) その他

- ・ 授業計画は学習状況をみて変更することがある。

学期	月	配当時間	単元	学習項目	学習内容（文法事項等）
一 学 期	4	7	宇治拾遺物語 更級日記 伊勢物語 徒然草 堤中納言物語 古本説話集	正格活用 変格活用 形容詞の活用 形容動詞の活用 助動詞の活用 助詞 敬語	重要古語 用言の活用
	5	7	奥の細道 土佐日記 枕草子 平家物語 沙石集		助動詞 古文の長文読解
	6	8	方丈記 蜻蛉日記 竹取物語 玉勝間 建礼門院右京大夫集		漢文訓読（返読文字・再読文字・置き字・助字）の復習、確認 古文・漢文の試験を実施し基礎力を確認
	7	4			
二 学 期	9	6	枕草子 大鏡 弁慶物語	語の識別 助詞の識別 助動詞の識別	重要古語・語の識別 敬語表現・助詞 和歌の修辞法
	10	8	古今著聞集北越 雪譜 無名草子 栄花物語 去来抄 大和物語	係り結び 和歌の修辞 敬語の方向	和歌の解釈 漢文の句形 古文・漢文の試験を実施し基礎力・応用力を確認
	11	8	三野日記十訓抄 紫式部日記 万葉集 古今和歌集 新古今和歌集		
	12	6			
三 学 期	1	2	入試過去問題演習	共通テスト演習	入試問題演習を実施し応用力を確認

年間授業計画

学校必履修 (文系選択)	教科名	単 位	学 年	科 目 名	担 当 者 氏 名
	地理歴史	5	3年	世界史B	小山純也

1) この講座のねらい (目標)

- ① 本講座では、まず2年次に出来なかった19世紀以降の時代を念入りに学習する。その後、原始・古代に戻り15～16世紀までの歴史を取り上げる予定である。
- ② 世界史の基礎知識を学ぶことを主眼とし、また歴史が本来もつ奥深さを知り、さらに歴史に対する知的好奇心を喚起したい。

2) 授業の概要

- ① 1学期は、近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立、欧米における近代国民国家の展開、アジア諸地域の動揺、帝国主義とアジアの民族運動、二つの世界大戦を取り上げて学習する。
- ② 2学期は、冷戦と第三世界の独立、現在の世界、オリエントと地中海世界、アジアの古代文明、内陸アジア世界・東アジア世界の形成、イスラーム世界の形成と発展、ヨーロッパ世界の形成と発展を取り上げて学習する。
- ③ 3学期は、共通テスト対策

3) 授業を進める上での留意点

- ① 授業者として心がけること
 - ・ 歴史に対する知的好奇心を喚起できる授業展開を心掛ける。
 - ・ 史料や様々な資料を提示し、読解力・思考力を高める。
 - ・ 各文化圏の歴史、また世界の一体化を意識できる授業を心掛ける。
- ② 生徒に求めること
 - ・ 授業に集中して取り組むこと。
 - ・ 課題や提出物を期限までに確実にやり終え、提出すること。
 - ・ 「なぜだろう?」「どうしてなのか?」という意識をもって歴史に向きあってほしい。

4) 教科書・副教材

『詳説世界史B』 山川出版社
『ニューステージ世界史詳覧』 浜島書店

5) 評価の観点と方法

評価の観点：正確な歴史知識を身に付け、世界史の流れを把握できているか。
評価方法：学習姿勢と定期考査の点数、提出物、レポートによって総合的に評価する。

学期	月	配当時間	単元	学習項目	学習内容
一 学 期	4	6	近代史	欧米における近代社会の成長	ヨーロッパ諸国の海外進出 産業革命 アメリカ独立戦争
	5	14			フランス革命とナポレオン ウィーン体制 アメリカ合衆国の発展
	6	20		アジア諸地域の動揺	オスマン帝国 アジアの植民地化
	7	4	現代史	帝国主義とアジアの民族運動 二つの世界大戦	世界分割と列強対立 アジア諸国の改革と民族運動 第1次世界大戦とロシア革命 ヴェルサイユ体制 アジア・アフリカ民族主義の進展 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 第2次世界大戦
二 学 期	9	15	現代史	冷戦と第三世界の自立	東西対立の始まりとアジア諸地域の自立 冷戦構造と日本・ヨーロッパの復興 第三世界の自立と危機 米・ソの動揺と国際経済の危機 冷戦の解消と世界の多様化
	10	17	古代史	オリエントと地中海世界	古代オリエント世界 ギリシア世界 ローマ世界
	11	21	中世史	アジアの古代文明	インドの古典文明 東南アジアの古典文明 中国の古典文明
	12	3		内陸アジア世界・東アジア世界の形成 イスラーム世界の形成と発展 ヨーロッパ世界の形成と発展	草原の遊牧民とオアシスの定住民 北方民族の活動と中国の分裂 東アジア文化圏の形成 イスラーム世界の形成 イスラーム世界の発展 各地域のイスラーム化 イスラーム文明の発展 西ヨーロッパ世界の成立 東ヨーロッパ世界の成立 西ヨーロッパ中世世界の変容 西ヨーロッパの中世文化
三 学 期	1	7	中世史	内陸アジア世界・東アジア世界の展開	トルコ化とイスラーム化の進展 東アジア諸地域の自立化 モンゴルの大帝国

年間授業計画

	教科名	単位	学年	科目名	担当者氏名
自由選択	地理歴史	2単位	3年	世界史B	石井増男

1) この講座のねらい (目標)

- ① 本講座では、大学入試に対応できる学力を身につけることを最大の目的とする。
- ② 世界史の基礎知識を学ぶことを主眼とし、また歴史が本来もつ奥深さを知り、さらに歴史に対する知的好奇心を呼び起こしたい。

2) 授業の概要

- ① 地域・時代ごとに、各国の歴史を理解させる。
- ② 入試問題を数多く解かせる。
- ③ 3学期は、共通テスト対策

3) 授業を進める上での留意点

- ① 授業者として心がけること
 - ・ 歴史に対する知的好奇心を呼び起こす授業展開を心掛ける。
 - ・ 史料や様々な資料を提示し、読解力・思考力を高める。
 - ・ 各文化圏の歴史、また世界の一体化を意識できる授業を心掛ける。
- ② 生徒に求めること
 - ・ 授業に集中して取り組むこと。
 - ・ 課題や提出物を期限までに確実にやり終え、提出すること。
 - ・ 「なぜだろう?」「どうしてなのか?」という意識をもって歴史に向きあってもらいたい。

4) 教科書・副教材

『詳説世界史B』 山川出版社
『ニューステージ世界史詳覧』 浜島書店

5) 評価の観点と方法

評価の観点：正確な歴史知識を身に付け、世界史の流れを把握できているか。
評価方法：学習姿勢と定期考査の点数、提出物、レポートによって総合的に評価する。

学期	月	配当時間	単元	学習項目	学	習	内	容
----	---	------	----	------	---	---	---	---

一 学 期	4	4	古代史	オリエンと地中海世界	古代オリエン世界 ギリシア世界 ローマ世界
	5	6		アジア・アメリカの古代文明	インドの古典文明 東南アジアの諸文明 中国の古典文明 南北アメリカ文明
	6	8	中世	内陸アジア世界・東アジア世界の形成	北方民族の活動と中国の分裂 東アジア文化圏の形成
	7	2		イスラーム世界の形成と発展	イスラーム世界の形成 イスラーム世界の発展
二 学 期	9	6		ヨーロッパ世界形成と発展	イスラーム文明の発展 西ヨーロッパ世界の成立 東ヨーロッパ世界の成立 西ヨーロッパ中世世界の変容
	10	6	近世	内陸アジア世界・東アジア世界の発展 アジア諸地域の繁栄	トルコ化とイスラーム化の進展 東アジア諸地域の自立化 モンゴル大帝国 東アジア世界の動向 清代の中国と隣接地域 トルコ・イラン世界の展開 ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展
	11	8		近世ヨーロッパ世界の形成	重商主義と啓蒙専制主義 ヨーロッパ諸国の海外進出 17～18世紀ヨーロッパの文化と社会 産業革命
	12	4			
三 学 期	1				

年間授業計画

学校必履修 (文系選択)	教科名	単 位	学 年	科 目 名	担 当 者 氏 名
	地理歴史	5	3年	日本史B	室井 誠

1) この講座のねらい (目標)

- ① 本講座では、2年次に深く学びことが出来なかった戦後史を復習したのち、原始・古代から近世（江戸時代）までの日本の歴史を取り上げる。日本社会の基層となった時代について学習する。
- ② 日本史の基礎知識を学ぶことを主眼としつつも、歴史が本来もつ奥深さを知り、歴史に対する知的好奇心を喚起したい。
- ③ 「世界の中の日本」を意識できる講座としたい。

2) 授業の概要

- ① 1学期は、戦後史復習ののち、日本文化のあけぼの、律令国家の形成、貴族政治と国風文化を概観し、日本列島の原始・古代の歴史を、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。
- ② 2学期は、中世社会の成立、武家社会の成長、幕藩体制の成立を概観し、織豊政権に至る過程を、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。
- ③ 3学期は、幕藩体制の展開、幕藩体制の動揺について概観し、江戸時代について、東アジアや西欧との関係を踏まえて考察する。

① 授業者として心がけること

- ・ 歴史に対する知的好奇心を喚起できる授業展開を心掛ける。
- ・ 史料や様々な資料を提示し、読解力・思考力を高める。
- ・ 世界の中で日本列島の歴史がいかに関係が展開されたか、意識できる授業を心掛ける。

② 生徒に求めること

- ・ 授業に集中して取り組むこと。
- ・ 課題や提出物を期限までに確実にやり終え、提出すること。
- ・ 「なぜだろう?」「どうしてなのか?」という意識をもって歴史に向きあってほしい。

4) 教科書・副教材

『改訂版 詳説 日本史B』 山川出版社
 『最新日本史図表 四訂版』 第一学習社

5) 評価の観点と方法

- ◎評価の観点：正確な歴史知識を身に付け、日本史の流れを把握できているか。
- ◎評価方法：定期考査の得点を基本として、学習姿勢や提出物などを加味し総合的に評価する。

学期	月	配当時間	単元	学習項目	学習内容
一 学 期	4	8	恐慌の時代 軍部の台頭 第二次世界大戦	金融恐慌～世界恐慌 テロによる軍部の台頭 第二次世界大戦	恐慌が政治の与えた影響 政治への不信による軍部の支持 開戦と敗戦 民主化政策
	5	15	占領下の日本 高度成長の時代 激動する世界と 日本	占領と改革 冷戦の開始と講和 経済復興から高度成長へ 冷戦終結と日本への影響	講和と安保条約 朝鮮特需と経済復興 高度経済成長 ドル危機と石油危機
	6	18	日本文化のあけ ぼの	文化のはじまり 農耕社会の成立 古墳とヤマト政権	旧石器時代と縄文文化 弥生文化と邪馬台国 ヤマト政権と古墳文化
	7	6	律令国家の形成 貴族政治と国風 文化	飛鳥の朝廷 律令国家の成立 平城京の時代 天平文化 摂関政治 国風文化 荘園と武士	厩戸王と飛鳥文化 律令制度 律令国家の成立 奈良時代の政治、外交、文化 平安初期の政治と文化 摂関政治と荘園制度 武士の成長
二 学 期	9	14	中世社会の成立	院政と平氏の台頭 鎌倉幕府の成立 元寇と幕府の衰退 鎌倉文化	院政と平氏の台頭 鎌倉幕府の成立 元寇と幕府の衰退 鎌倉文化
	10	18	武家社会の成長	室町幕府の成立 幕府の衰退と庶民の台頭 室町文化・戦国大名	室町幕府の成立 幕府の衰退と庶民の台頭 室町文化・戦国大名
	11	20	幕藩体制の成立 幕藩体制の展開	織豊政権と桃山文化 江戸幕府の成立 幕政の安定 経済の発展 元禄文化	織豊政権と桃山文化 江戸幕府の成立 文治政治 農業、諸産業の発達 元禄期の文学・美術
	12	12			

三 学 期	1	6	幕藩体制の動揺	幕政の改革 幕府の衰退 化政文化	享保・寛政の改革と田沼時代 18世紀の諸問題 化政期の文学・美術・学問
-------------	---	---	---------	------------------------	---

年間授業計画

	教科名	単位	学年	科目名	担当者氏名
自由選択	地理歴史	2	3年	日本史B	室井 誠

1) この講座のねらい (目標)

日本史で大学受験をしようとする生徒のための講座である。予習・復習を自主的に行い、問題演習の時間を確保し、大学受験に耐えうる学力を身につけさせたい。

2) 授業の概要

本講座は大学受験を意識した問題演習をおこなう。副教材『日本史総合テスト 改訂版』(山川出版社)を活用して授業を進めるが、適宜、大学入試問題も教材として利用する。

3) 授業を進める上での留意点

① 授業者として心がけること

- ・知識を定着させるための予習・復習を重視するとともに、大学入試に対応できる実践力を養う。
- ・受験生であるという自覚を高めさせると同時に、自分なりの勉強方法を模索させたい。

② 生徒に求めること

- ・大学受験生としての強い自覚をもって臨んでほしい。
- ・予習、復習が前提の授業である。
- ・学習した内容について、適宜、確認テストを実施する。
- ・長期休業中に補習を実施するので、積極的に参加すること。

4) 教科書・副教材

『詳細日本史B』 山川出版社

『日本史総合テスト 改訂版』 山川出版社

5) 評価の観点と方法

評価の観点：正確な歴史知識を身に付け、日本史の流れを把握できているか。
大学入試に対応できる実践力が身に付いてきたか。

評価方法：定期試験の点数と小テストを評価の基準とする。

学期	月	配当時間	単元	学習項目	学習内容
一 学 期	4	6	近代	明治維新 近代国家の成立	講義聴講の後、 <ul style="list-style-type: none"> ・問題演習 ・重要史料演習 ・大学入試問題演習 ・確認小テスト
	5	6	近代	日本とアジア 大正デモクラシー 昭和の日本	
	6	8	現代 原始・古代	占領下の日本 日本文化のはじまり 古代国家の形成	
	7	6		古代国家の展開 宮廷貴族社会の成立	
二 学 期	9	8	中世	宮廷貴族社会の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習 ・重要史料演習 ・大学入試問題演習 ・確認小テスト
	10	6		武家社会の成立 中世社会の展開 幕藩体制の成立	
	11	8	近世	幕藩体制の動揺	
	12	6			
三 学 期	1	6	総合問題		<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習 ・重要史料演習 ・大学入試問題演習 ・確認小テスト

年間授業計画

東京都立本所高等学校

必履修	教科名	単 位	学 年	科 目 名	担 当 者 氏 名
	公民	2	3	現代社会	後藤 大騎

1) この講座のねらい（目標）

現代の社会の仕組みや抱えている課題について学び、一人一人が主体的に考えて課題を解決する力を養うことを目標とする。現代の社会は非常に複雑で、多様な立場と主張がある。その中で民主社会の一員としての資質として、「幸福、正義、公正」の観点を持って課題に対することが必要とされている。基礎的な知識を得るとともに、幸福とは何か、正義とは何か、公正とは何かを考え、現実に対して批判的に向き合いつつ解決のための提案をするための力を養う。

2) 授業の概要

① 現代の社会と人間

青年としてのあり方生き方 先人の生き方考え方 日本人としての自覚
地球環境問題 資源・エネルギー問題 科学技術の発達と生命 高度情報化社会と生活

② 現代の政治と法

民主政治の基本原則 日本国憲法と基本的人権 日本の政治機構 政治参加と民主政治の課題

③ 現代の経済

経済社会の変容と現代の企業 日本経済の進展と国民生活

3) 授業を進める上での留意点

① 授業者として心がけること

- ・設定した目標を達成するべく、授業内容・資料等の改善に努めること
- ・生徒の社会的な関心・意識を喚起すること
- ・客観的且つ公正な評価を実施すること

② 生徒に求めること

- ・社会を構成するメンバーとしての意識を形成すること
- ・主体的・能動的な学習姿勢を確立すること

③ 受験科目としての位置づけを確認し、所要の措置を講じること

4) 教科書・副教材

『改訂版 現代社会』（数研出版）

『最新 現代社会資料集』（第一学習社）

5) 評価の観点と方法

「現代社会」認識の深化・社会事象への関心度・理解度、公民としての意識の形成
定期考査と平常点（授業態度・レポート・提出物など）を総合して評価する

学期	月	配当時間	単 元	学 習 項 目	学 習 内 容
一 学 期	4	6	現代の社会と人間	青年期と自己の形成	青年期の特徴・青年期の課題・青年期のパーソナリティの形成
	5	8		私たちの生きる社会	地球環境問題・資源、エネルギー問題・科学技術の発達と生命・高度情報化社会と生活
	6	8	現代社会の政治と法	個人の尊重と法の支配	民主政治における個人と国家・民主政治の原理と法の支配・世界の主な政治制度・明治憲法と日本国憲法・基本的人権の保障・平和主義と安全保障
	7	6		現代の民主政治と政治参加の意義	国会のしくみと役割・内閣のしくみと役割・裁判所のしくみと役割・地方自治の現状と課題
二 学 期	9	8	現代社会の政治と法	現代の民主性と政治参加の意義	政党の役割・選挙と選挙制度・世論の形成と現代民主政治の課題
	10	8	現代の経済社会と経済活動のあり方	経済社会の変容と現代の企業	資本主義経済の発展と変容・経済生活のしくみ・企業の働きとその役割
	11	8		市場機構と政府の役割	市場経済のしくみ・国民所得と経済成長・政府の財政政策・日本銀行と金融政策
	12	6	日本経済の進展と国民生活	日本経済の進展と変化	戦後日本経済のあゆみ・中小企業とその役割・日本の農業と食糧自給
三 学 期	1	6	日本経済の進展と国民生活	豊かな生活と福祉の実現	公害の発生と防止・消費者問題と消費者保護・雇用問題と労働関係の改善・社会保障と国民福祉

年 間 授 業 計 画

東京都立本所高等学校

学校必履修 (理系)	教科名	単 位	学 年	科 目 名	担 当 者 氏 名
	数学	6 (2)	3	数学Ⅲ (数学Ⅲ①)	清水 達也、松木 丈浩

1) この講座のねらい (目標)

この科目は、数学に強い興味や関心をもって更に深く学習しようとする生徒や、将来、数学が必要な専門分野に進もうとする生徒が履修する科目であり、「数学Ⅱ」の内容を発展、充実させるとともに、内容相互の関連を重視し「平面上の曲線と複素数平面」、「極限」、「微分法」及び「積分法」の四つの内容で構成されている。そのうち、本授業 (2単位分) では、「平面上の曲線と複素数平面」を扱う。平面上の曲線と複素数平面についての理解を深め、回転や図形の見方といった、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し、表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てることを目標とする。

2) 授業の概要

「1) この講座のねらい」に示した通り、「平面上の曲線と複素数平面」を学習する。平面上の曲線のいろいろな表示と複素数平面を扱う。

3) 授業を進める上での留意点

① 授業者として心がけること

教員からの一方的な講義のみならず、生徒自身が考える場面等を意識して取り入れる。

また、理系の生徒のみ対象の科目であることから、大学入試に対応できる学力をつけさせることを念頭に、より応用的な問題や、考え方を扱う。内容がやや難しいので、独特の発想ができるべく常に考える工夫をさせる。

② 生徒に求めること

難しい内容となっても、あきらめず、分からないものを分からないままにしないこと。時間をかけてでも、じっくり考え、時には周りの人や先生の助けも借りるなどしてしっかりと理解をすることで、論理的な思考力や、数学的な考え方や態度が身につくものである。数学Ⅲの内容は、大学入試で非常に重要である。大学入学後も最も基本となる部分である項目故、しっかりと復習をし、多くの問題演習をしてほしい。

4) 教科書・副教材

教科書： 新編数学Ⅲ (数研出版)

副教材： 3TRIAL 数学Ⅲ (数研出版) 練習ドリル数学Ⅲ標準編 (数研出版)

5) 評価の観点と方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に取り組む態度の3観点について、定期考査を中心に、提出物、小テスト、授業への取り組みの様子。態度等を総合的に判断して評価をつける。

学期	月	配当時間	単元	学習項目	学習内容
一 学 期	4	11	第1章 平面上の曲線	1節 2次曲線	1 放物線
	5				2 楕円
	6	15		2節 媒介変数表示と極座標	3 双曲線
	7				4 2次曲線と平行移動
				5 2次曲線と直線	
二 学 期	9	15	第2章 複素数平面	1節 複素数平面	1 複素数平面
	10				2 複素数の極形式
	11	18		2節 図形への応用	3 ド・モアブルの定理
	12				1 複素数平面上の図形
		5	総合演習	2 2直線のなす角	
三 学 期	1	2	総合演習		

※ 配当時間は定期考査を含む。

年 間 授 業 計 画

東京都立本所高等学校

	教科名	単 位	学 年	科 目 名	担 当 者 氏 名
学校必履修 (理系)	数学	6(4)	3	数学Ⅲ (数学Ⅲ②)	清水 達也、松木 丈浩

1) この講座のねらい (目標)

この科目は、数学に強い興味や関心をもって更に深く学習しようとする生徒や、将来、数学が必要な専門分野に進もうとする生徒が履修する科目であり、「数学Ⅱ」の内容を発展、充実させるとともに、内容相互の関連を重視し「平面上の曲線」、「複素数平面」、「極限」、「微分法」及び「積分法」の五つの内容で構成されている。そのうち、本授業(4単位分)では、「極限」、「微分法」、「積分法」を扱う。極限、微分法、積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てることを目標とする。

2) 授業の概要

「1) この講座のねらい」に示した通り、3つの単元を学習する。各単元の概要は以下の通りである。

- ・ 「極限」…数列及び関数値の極限を扱う。
- ・ 「微分法及び積分法」…多項式関数のほかに分数関数、無理関数、三角関数、指数関数及び対数関数の微分法及び積分法について、「数学Ⅱ」の「(5)微分・積分の考え」を発展、充実させて扱う。

3) 授業を進める上での留意点

① 授業者として心がけること

選択希望者による授業なので、生徒の能力・理解力に合わせた授業を展開する。また、飽きさせないようにできるだけ生徒の理解度を観察しながら授業を進めていく。生徒にとってかなり難しい内容であるため、講義だけでなく演習を通して内容を理解させることを心がける。また、教員からの一方的な講義のみにならず、生徒自身が考え表現する場面等を取り入れる。

② 生徒に求めること

これまでに学んだ「数学Ⅰ・A」・「数学Ⅱ・B」を確実に理解しておく。復習を常に行い、あきらめないで理解しようとする努力をする。

難しい内容となっても、あきらめず、分からないものを分からないままにしないこと。時間をかけてでも、じっくり考え、時には周りの人や先生の助けも借りるなどしてしっかりと理解をすることで、論理的な思考力や、数学的な考え方が身につくものである。多くの理系の生徒にとっては、数学Ⅱで学習する単元を大学受験の試験範囲となるので、そのことを踏まえ、毎回の授業を大切に受講し、受け身にならず、自らしっかりと学び、最後の演習に取り組んでほしい。

4) 教科書・副教材

教科書：新編数学Ⅲ (数研出版)

副教材：3TRIAL 数学Ⅲ (数研出版) 練習ドリル数学Ⅲ標準編 (数研出版)

5) 評価の観点と方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に取り組む態度の3観点について、定期考査を中心に、提出物、小テスト、授業への取り組みの様子。態度等を総合的に判断して評価をつける。

学期	月	配当時間	単元	学習項目	学習内容
一 学 期	4	5 2 時間	3 関数と極限	1 関数	1 分数関数・無理関数とそのグラフ 2 逆関数と合成関数
	5			2 数列の極限	1 数列の極限 2 無限等比数列 3 無限級数・無限等比級数 4 いろいろな無限級数
	6			3 関数の極限	1 関数の極限 2 いろいろな関数と極限 3 関数の連続性
	7	4 微分	1 微分法	1 導関数 2 積・商の微分法 3 合成関数の微分法	
	7		2 いろいろな関数の導関数	1 三角関数の導関数 2 対数関数・指数関数の導関数 3 高次導関数	
			5 微分の応用	1 接線、関数の増減	1 接線の方程式 2 平均値の定理 3 関数の増減、極大・極小 4 第2次導関数とグラフ
				9	5 微分の応用
二 学 期	10	5 6 時間	6 積分とその応用	1 不定積分	1 不定積分 2 置換積分法・部分積分法 3 いろいろな関数の不定積分
	11			2 定積分	1 定積分 2 定積分の置換積分法・ 3 偶関数と奇関数の定積分 4 定積分の部分積分法 5 定積分で表された関数 6 定積分と区分求積法 7 定積分と不等式
	12			3 面積・体積・長さ	1 面積 2 体積 3 曲線の長さと道のり

三 学 期	1	4時間	総合演習		
	2				
	3				

年 間 授 業 計 画

東京都立本所高等学校

学校必履修 (理系)	教科名	単 位	学 年	科 目 名	担 当 者 氏 名
	数学	2	3	数学 I	柴宮 一則

1) この講座のねらい (目標)

①数と式、2次関数、図形と計量、及びデータの分析について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を身に着けることをねらいとする。

②本講座は、看護・医療系の大学・専門学校や四年制大学等を受験希望している理系の生徒のための講座である。従って、その基本である「数と式」、「2次関数」、「図形と計量」、「データの分析」について1年生で学習した内容を発展させ、実際に出題された入試問題の演習を行うことにより、知識の定着を計るとともに、より高度な問題を解く学力と思考力を育てる。

2) 授業の概要

「1) この講座のねらい」に示した通り、4つの単元を学習する。各単元の概要は以下の通りである。

「数と式」…実数についてまとめるとともに、式の展開と因数分解及び一元一次不等式について扱う。また、従前の「数学 A」で扱っていた「集合と論理」もここで扱う。

「図形と計量」…角の大きさなどを用いて図形の計量を扱う。

「二次関数」…二次関数を中心に、具体的な事象の考察を通して数量の変化をとらえたり、二次不等式などに活用したりすることを扱う。

「データの分析」…中学校で扱っている資料の平均や散らばりの考えを更に発展させて、分散、標準偏差、散布図及び相関係数などを扱い図やグラフの見方を養う。

3) 授業を進める上での留意点

① 授業者として心がけること

教員からの一方的な講義のみならず、生徒自身が考える場面等を取り入れる。

② 生徒に求めること

難しい内容となっても、あきらめず、分からないものを分からないままにしないこと。時間をかけてでも、じっくり考え、時には周りの人や先生の助けも借りるなどしてしっかりと理解をすることで、論理的な思考力や、数学的な考え方が身につくものである。多くの理系の生徒にとっては、数学 I で学習する単元を大学受験の試験範囲となるので、そのことを踏まえ毎回の授業を大切に受講し、受け身にならず、自らしっかりと学び考えてほしい。

4) 教科書・副教材

教科書：新編数学 I (数研出版)

副教材：リンク数学演習 I・A 受験編 (数研出版)

大学入試 共通テスト 準備問題集 数学 I・A (数研出版)

5) 評価の観点と方法

関心・意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な技能、知識・理解の4観点について、定期考査を中心に、提出物、小テスト、授業への取り組みの様子及び態度等を総合的に判断して評価をつける。

学期	月	配当時間	単元	学習項目	学習内容
一 学 期	4	7	1 数と式	1節 式の計算 2節 実数 3節 1次不等式	1 整式 2 整式の加法・減法・乗法 3 因数分解 1 実数 2 根号を含む式の計算 1 不等式の性質 2 1次不等式 3 1次不等式の応用
			2 集合と論証	1節 集合 2節 命題と論証	1 集合 1 命題と条件 2 論証
	5	8	3 2次関数	1節 2次関数とその グラフ	1 関数 2 2次関数 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定
	6	10		2節 2次方程式と 2次不等式	1 2次方程式 2 2次方程式の実数解の個数 3 2次関数のグラフと x 軸の共有点 4 2次不等式 5 2次不等式の応用
	7	6	4 図形と計量	1節 鋭角の三角比	1 直角三角形と三角比 2 直角三角形の辺と角 3 三角比の相互関係

二 学 期	9	10	4 図形と計量 (続き)	2節 三角比の拡張 3節 三角形への応用	1 三角比と座標 2 三角比の性質 1 正弦定理 2 余弦定理 3 三角形の面積 4 空間図形の計量
	10	8	5 データの分析	1節 データの整理と分析 2節 データの相関	1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばり 1 相関関係 2 相関係数
	11	10	共通テスト対策		○問題演習 ○大学入試問題演習 ○確認小テスト
	12	7	共通テスト対策		○共通テスト問題演習
三 学 期	1	4	共通テスト対策 2次試験対策		○共通テスト問題演習 ○大学入試問題演習
	2				
	3				

年 間 授 業 計 画

学校必履修 (理系)	教科名	単 位	学 年	科 目 名	担 当 者 氏 名
	数学	2	3	数学A	高瀬 浩之

1) この講座のねらい (目標)

① 場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を身に着けることをねらいとする。

② 本講座は、看護・医療系の大学・専門学校や四年制大学等を受験希望している理系の生徒のための講座である。従って、その基本である「場合の数と確率」、「図形の性質」、「整数の性質」について復習をするとともに過去において、主に看護関係の専門学校または短大で実際に出題された入試問題の演習を行うことにより、知識の定着を計るとともに、より高度な問題を解く学力と思考力を育てる。

2) 授業の概要

「1) この講座のねらい」に示した通り、3つの単元を学習する。各単元の概要は以下の通りである。

「場合の数と確率」…1年次に学習した「数学A」の「場合の数と確率」の内容の復習と、その活用方法・応用に関する内容について発展させて扱う。

「整数の性質」…1年次に学習した「数学A」の「整数の性質」の内容の復習と、その活用方法・応用に関する内容を発展させて扱う。

「図形の性質」…1年次に学習した「数学A」の「図形の性質」の内容の復習と、その活用方法・応用に関する内容を発展させて扱う。

3) 授業を進める上での留意点

① 授業者として心がけること

教員からの一方的な講義のみならず、生徒自身が考え表現する場面等を取り入れる。

② 生徒に求めること

難しい内容となっても、あきらめず、分からないものを分からないままにしないこと。時間をかけてでも、じっくり考え、時には周りの人や先生の助けも借りるなどしてしっかりと理解をすることで、論理的な思考力や、数学的な考え方が身につくものである。多くの理系の生徒にとっては、数学Aで学習する単元を大学受験の試験範囲となるので、そのことを踏まえ毎回の授業を大切に受講し、受け身にならず、自らしっかりと考えてほしい。

4) 教科書・副教材

教科書 新編数学A (数研出版)

副教材 リンク数学演習 I・A 受験編 (数研出版)

大学入試 共通テスト 準備問題集数学 I・A (数研出版)

5) 評価の観点と方法

関心・意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な技能、知識・理解の4観点について、定期考査を中心に、提出物、小テスト、授業への取り組みの様子及び態度等を総合的に判断して評価をつける。

学期	月	配当時間	単元	学習項目	学習内容
一 学 期	4	1 8	1 場合の数と確率	1 場合の数	1 数え上げの原則 2 順列 3 組合せ
	5			2 確率とその基本性質	1 事象と確率 2 確率の基本性質
				3 いろいろな確率	1 独立な試行の確率 2 反復試行の確率 3 条件つき確率
	6	1 8	2 整数の性質	1 約数と倍数	1 約数と倍数、素因数分解 2 最大公約数と最小公倍数 3 余りによる整数の分類
	7			2 ユークリッドの互除法と不定方程式	1 ユークリッドの互除法 2 不定方程式 3 n進法 4 分数と小数
			3 いろいろな方程式の整数解	1 方程式の整数解 2 不等式の利用	
			3 図形の性質	1 三角形の性質	1 角の二等分線と比 2 三角形の重心・外心・内心 3 三角形の比の定理 4 作図
二 学 期	9	1 8	3 図形の性質	2 円の性質	1 円周角の定理とその逆 2 円に内接する四角形 3 円の接線 4 接線と弦のつくる角 5 方べきの定理 6 2つの円
	10			4 空間図形	1 空間における直線と平面 2 2直線の位置関係 3 直線と平面の位置関係 4 2平面のなす角 5 多面体
	11	1 4	共通テスト対策		1 問題演習 2 大学入試問題演習 3 確認小テスト
	12				

三 学 期	1	2	共通テスト対策		1 大学入試共通テスト問題演習
	2				
	3				

年間授業計画

東京都立本所高等学校

	教科名	単位	学年	科目名	担当者氏名
自由選択	数学	2	3	数学演習α	松木 丈浩

1) この講座のねらい (目標)

この講座は、主に理工系大学 (化学、情報) への進学を希望している生徒のための講座である。従って、その基本である数学ⅡBの主だった計算演習、「複素数と方程式」、「図形と方程式」、「三角関数」、「指数関数と対数関数」、そして計算の代表である「微分法と積分法」について2年生で学習した内容を発展させ、復習し、実際の入試問題による演習を行うことにより、より高度な問題を解く学力を育てる。

2) 授業の概要

「2次関数」、「データの分析」、「複素数と方程式」、「図形と方程式」、「三角関数」、「指数関数と対数関数」、「微分法と積分法」の基本的内容を復習し、その応用への考え方を学ぶ。生徒自身による問題解法と、解説・課題解決及び表現中心の授業となる。

3) 授業を進める上での留意点

① 授業者として心がけること

基本的な内容を確認させ、より高度な問題を解くための学力を身に付けさせる。生徒自身の工夫を促すために生徒自身に解決させ解かせ表現させる。

② 生徒に求めること

家庭学習 (予習、復習) を必ず行うこと及び、充てられた課題に対し、考えてあるいは考える努力をしていくこと。

4) 教科書・副教材

短期集中ゼミ 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B (実教出版)

5) 評価の観点と方法

基礎的な学力を理解しているか、高度な問題に対して解く学力及び態度を身に付けることができたか。定期考査の結果を中心に、平素の授業態度や出欠状況、提出物等及び自らの表現も考慮の上評価する。

学期	月	配当時間	単元	学習項目	学習内容
一学期	4月～7月	24時間	2次関数 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数と対数関数	2次関数とグラフ 次関数の値の変化 2次不等式 複素数と2次方程式の解 高次方程式 点と直線 円 軌跡と領域 三角関数 加法定理 指数関数	2次関数のグラフ グラフの平行移動・対象移動 2次関数の最大・最小 2次関数の決定 2次不等式 複素数とその計算 2次方程式の解、解と係数の関係 剰余の定理と因数定理 高次方程式 直線上の点、平面上の点 直線の方程式、2直線の関係 円の方程式、円と直線 軌跡と方程式、不等式の表す領域 角の拡張 三角関数とそのグラフ、 三角関数の性質 三角関数についての方程式・不等式 三角関数の加法定理 加法定理の応用 指数の拡張、指数関数
二学期	9月～12月	28時間	指数関数と対数関数 微分法と積分法	対数関数 微分係数と導関数 関数の値の変化 積分法	対数とその性質 対数関数、常用対数 微分係数 導関数と計算 接線の方程式 関数の増減と極大・極小 関数の増減・グラフの応用 不定積分 定積分 定積分と図形の面積
三学期	1月～3月	2時間	データの分析	データの整理と分析 データの相関	データの代表値、データの散らばり 相関関係、相関係数

年間授業計画

	教科名	単位	学年	科目名	担当者氏名
自由選択	数学	2	3	数学演習β	石山 勝一

1) この講座のねらい (目標)

この講座は、主に理学工学系（機械、電気、電子）大学学部への進学を希望し、受験科目に数学Ⅲがある生徒のための講座である。

従って、主に数学Ⅲの内容である「関数と極限」、「複素数平面」、「平面上の曲線」、「微分法」、「積分法」、を中心に、「数列」、「平面上および空間のベクトル」について、実際の入試問題による演習を行うことにより、より高度な問題を解く態度・学力を育てる。

2) 授業の概要

「関数と極限」、「複素数平面」、「平面上の曲線」、「微分法」、「積分法」、「数列」、「平面上および空間のベクトル」について、その問題解法の考え方を学ぶ。生徒自身による問題解法と、解説・演習、課題解決中心の授業となる。

3) 授業を進める上での留意点

① 授業者として心がけること

教科書で習った基本的な内容を確認、発展させ、より高度な問題を解くための学力及び態度を身に付けさせる。

② 生徒に求めること

家庭学習（予習、復習）を必ず行い、しっかり考える自ら考える工夫をすること。

4) 教科書・副教材

授業の理解から入試対策までよくわかる数学Ⅲ (Gakken)

チャート式 理系対策 数学ⅠⅡA B/Ⅲ 入試必携 168 (数研出版)

5) 評価の観点と方法

基礎的な学力を理解しているか、高度な問題に対して解く学力を身に付けることができたか。

自ら進んで解法を行っているか。

定期考査の結果を中心に、平素の授業態度や出欠状況、授業終了まじかの課題演習、提出物等も考慮の上評価する。

学期	月	配当時間	単元	学習項目	学習内容
一 学 期	4 月 ～ 7 月	24 時間	関数と極限 複素数平面 平面上の曲線 微分法	関数 数列の極限 関数の極限 複素数平面 図形への応用 2次曲線 媒介変数表示と極座標 微分法 いろいろな関数の導関数 接線・関数の増減 微分のいろいろな応用	分数関数・無理関数 無限等比数列 無限級数 いろいろな関数と極限 複素数の極形式 ド・モアブルの定理 複素数平面上の図形 放物線・楕円・双曲線 極座標と極方程式 合成関数の微分法 三角関数・対数関数・指数関数の導関数 関数の極大・極小 方程式・不等式への応用 速度・加速度
二 学 期	9 月 ～ 12 月	28 時間	積分法 数列 ベクトル	不定積分 定積分 面積・体積・長さ いろいろな数列 漸化式と数学的帰納法 平面上のベクトル ベクトルの応用 空間におけるベクトル	置換積分・部分積分 定積分で表された関数 定積分と不等式 面積・体積・曲線の長さとのり 階差数列と数列の和 漸化式・数学的帰納法 ベクトルの成分・内積 ベクトルの図形への応用 ベクトル方程式 位置ベクトルと空間の図形
三 学 期	1 月 ～ 3 月	2 時間	総合演習	入試問題総合演習	

年間授業計画

学校必履修 (理系選択)	教科名	単位	学年	科目名	担当者氏名
	理科	5単位	3年	物理	櫻井 一雄

1) この講座のねらい (目標)

「物理基礎」で履修した内容をベースに、様々な物理現象に関する概念や定義等について学び、事象を論理的に考察する力を身につける。

2) 授業の概要

- 第1編 力と運動：平面内の運動、剛体、運動量の保存、円運動と万有引力について理解する。
- 第2編 熱と気体：気体のエネルギーと状態変化について理解する。
- 第3編 波：波の伝わり方、音の伝わり方、光について理解する。
- 第4編 電気と磁気：電場、電流、電流と磁場、電磁誘導と電磁波について理解する。
- 第5編 原子：電子と光・原子と原子核について理解する。

3) 授業を進める上での留意点

- ① 授業者として心がけること
 - ・現象や物理量などの定義を大切にし、理解と定着を図る。特に物理量の単位は丁寧に扱う。また、公式や組立単位についてはできるだけ導出についても取り上げ、単純な暗記に陥らないようにする。
 - ・物理現象を捉える視点の育成と、論理的な思考方法の定着を図る。
- ② 生徒に求めること
 - ・定義をもとに論理的に思考する癖をつけて欲しい。各種物理現象における公式の意義を理解し、定性的な理解に基づいた定量的な取扱いができるようになる。

4) 教科書・副教材

- ①教科書：「改訂版 物理」(数研出版)
- ②副教材：「リードα 物理」(数研出版)

5) 評価の観点と方法

- 評価：定期考査の得点
 課題の内容と提出状況
 出席状況を含む授業への参加度
- } を総合して評価する。
- 観点：「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つの観点に基づくものとする。

学期	月	配当時間	単元	学習項目	学習内容	
一 学 期	4	4	力と運動	平面内の運動	平面運動の速度・加速度	
		4			落体の運動	
	5	4	熱と気体	剛体	剛体にはたらく力のつり合い	
		4		運動量の保存	剛体にはたらく力の合力、重心	
		4		円運動と万有引力	運動量と力積、運動量保存則、反発係数	
		4			等速円運動、慣性力	
	6	4	波		単振動	
		4			万有引力（位置エネルギー、宇宙速度）	
	二 学 期	9	4	波	音の伝わり方	音のドップラー効果
			4		光	光の性質、レンズと鏡
10		4	電気と磁気	電場	光の干渉と回折	
		4		電流	電場、電位	
		4		電流と磁場	コンデンサー	
		4			直流回路、半導体	
11		4	原子		磁場、電流の作る磁場	
		4			電流が磁場から受ける力、ローレンツ力	
12	4	原子	電磁誘導と電磁波	電磁誘導の法則、自己誘導と相互誘導		
	4			交流の発生、交流回路		
	4			交流回路のインピーダンス		
	4		電子と光	電子、光の粒子性		
三 学 期	1	4	原子	原子と原子核	原子の構造とエネルギー順位、原子核放射線とその性質、素粒子	
		4				
	2					
3						

年間授業計画

	教科名	単位	学年	科目名	担当者氏名
必修選択	理科	5	3	化学	志村 智也

1) この講座のねらい (目標)

化学的な事物・現象についての観察、実験や課題研究などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。また、大学入試にも対応できる力を育成する。

2) 授業の概要

理論化学、無機化学、有機化学、高分子化合物の順に扱う。
 日常に起きている現象と関連付けながら理論的な内容について考えさせる。
 進度を早める且つ生徒が主体となって活動する時間を多くとるために、プリント・ICT 端末を用いた授業展開を主体とする。
 各単元で化学基礎との繋がりを確認しながら進めていく。

3) 授業を進める上での留意点

- ① 授業者として心がけること
 - 基礎内容の定着のために同じ問題を複数回扱うようにする。
 - 大切なことは複数の授業の中で何度も繰り返し発言する。
 - 実験を多く扱い、興味をもてるようにする。
 - 大学入試の問題を多く扱い、日々の演習の中から入試を意識させる。
- ② 生徒に求めること
 - 非常に進度が速いので、授業内容の要点を毎日復習する。
 - セミナー化学で、自分のレベルにあった問題を3回以上繰り返し解く。
 - 問題集の丸付けがただの作業にならないように次回解けるようなポイントを記入すること。
 - 授業と休み時間とのメリハリをつける。

4) 教科書・副教材

教科書	化学	実教出版
副教材	セミナー 化学基礎+化学	第一学習社
資料集	4訂版 サイエンスビュー 化学総合資料	実教出版

5) 評価の観点と方法

評価は「関心・意欲・態度」「化学的な見方や考え方」「観察・実験の技能・表現」「知識・理解」の4つの観点に基づいて、スタディサプリの提出状況、学習態度、出席状況、実験への取り組み方、定期考査を総合的に判断して行う。

学期	月	配当時間	単元	学習項目	学習内容
一 学 期	4	8	第1章 物質の状態と平衡	物質の構造と融点・沸点、 状態間の平衡 ボイルシャルルの法則、気体 の状態方程式、結晶の構造、 アモルファス	・物質を構成する粒子の結びつき方が、物質 それぞれの構造や性質の違いを生むことを 学ぶ。 ・気体が示す性質について学ぶ。 ・物質の状態とその変化を、構成粒子の存在 状態とエネルギーの関係から学ぶ。
		8	1 状態変化		
		8	2 気体の性質		
	5	8	3 固体の構造	溶解、溶解度、溶液の性質 コロイド溶液の性質	・物質の溶解と溶液の性質を学び、溶液につ いて理解を深める。 ・熱化学を中心に、化学反応とエネルギーの 関連性を学ぶ。電気エネルギーについては、 電池や電気分解を扱う。
		8	4 溶液		
		8	第2章 物質の変化と平衡		
6	8	1 化学反応とエネ ルギー	エネルギーの変換と保存、化 学反応と熱エネルギー、ヘス の法則、化学反応と光エネ ルギー、化学反応と電気エネ ルギー	・反応の速さを決める条件と、条件変化によ る反応の速さの変化を学ぶ。 ・化学平衡の状態やそのときの各成分の量的 関係、さらに条件の変化に伴う量的関係の変 化などについて学ぶ。	
		2 反応の速さとし くみ			
		3 化学平衡			
	10	10	第3章 無機化学	化学平衡と化学工業 電解質水溶液の平衡	・水素、希ガス、ハロゲン、酸素、硫黄、窒 素、リン、炭素、ケイ素、アルカリ金属、2 族元素、その他の典型元素、遷移元素につ いて、単体と化合物の性質や製法を学ぶ。
			1 非金属元素		
7	5	2 金属元素	金属と人間生活		
		3 無機物質と人間 生活	セラミックスと人間生活		
二 学 期	9	12	第4章 有機化合物	1 有機化合物の特徴 2 有機化合物の分類 3 構造式の決定	・有機化合物の特徴と分類、化学式使い分け について学ぶ。 ・元素分析の方法を学び構造式を決定でき るようにする。 ・炭化水素の異性体の構造と名称を答えられ るようにする。
			12		
		10	11	4 芳香族化合物	1 飽和炭化水素 1 アルコールとエーテル 2 アルデヒドとケトン 3 カルボン酸とエステル
	11	10	5 有機化合物と人 間生活	1 芳香族炭化水素 2 酸素を含む芳香族化合物 3 窒素を含む芳香族化合物 4 混合物の分離	・フェノール類、芳香族アルデヒドやカルボ ン酸の製法や性質を答えられるようにする。 ・ニトロベンゼンやアニリン等の製法や性質 を答えられるようにする。 ・洗剤や染料の特徴や製法を言えるようにす る。
				10	第5章 高分子化合物
		12	10	1 高分子化合物 2 天然高分子化合 物	1 糖 2 タンパク質 3 核酸
			3 合成高分子化合 物	1 合成高分子化合物の分類 2 合成繊維 3 合成樹脂 4 機能性高分子 5 ゴム	・合成高分子化合物の重合反応の種類や構造 の特徴、重合度について答えられるようにす る。 ・合成高分子化合物やゴムの単量体や重合体 の構造式や名称を言えるようにする。
三 学 期	1	5	入試問題演習	入試問題演習	・入試問題の過去問演習を行う。

年間授業計画

東京都立本所高等学校

学校必履修 (理系選択)	教科名	単位	学年	科目名	担当者氏名
	理科	5	3	生物	岡本 優太

1) この講座のねらい (目標)

- ・ 2年までに学習した事項を基盤として、大学受験に対応できるような生物の学習の習熟を目指す。
- ・ 卒業後に生物学が必要になる生徒についても、卒業後の学びにつながっていくような、幅広い生物学の知識を身につけさせる。
- ・ 生物学の知識・考え方を身に着けることで、高等学校理科の目標である科学的な自然観の育成を目指す。
- ・ 実習を通じて、実験器具等への習熟を図る。

2) 授業の概要

2人の担当者が、2つの講座を受け持つ。それぞれ担当者ごとに分野を設定し、学習を進めていく。

1学期…「生命現象と物質」及び「生殖と発生」「生物の環境応答」の前半を扱う。生物基礎の学習を復習しながら、授業を進める。基本的な生化学実験も授業に取り入れる。

2学期…「生殖と発生」「生物の環境応答」の後半及び「生物の進化と系統」を扱う。授業においては、入試問題演習も取り入れながら展開する。

3学期…「生物の進化と系統」を引き続き扱う。

3) 授業を進める上での留意点

① 授業者として心がけること

科学的な自然観育成のためにも、入学試験に対応するためにも、知識の暗記をする学習ではなく、それぞれの事柄の理由までしっかりと生徒に考え、納得させることのできるように指導する。また、授業の中から問題演習を豊富に取り入れることによって、生徒の理解の定着を図る。

② 生徒に求めること

授業の中では、「なぜ」という思いを大切にすると同時に、突き詰めてその理由を考えてほしい。その過程でより理解が深まっていく。教員からの問いかけに対しても、真摯に考えることで、より深い理解がなされる。また、授業時間外には、必ず復習を励行してほしい。

4) 教科書・副教材

教科書 生物改訂版 (啓林館)

副教材 三訂版 フォトサイエンス生物図録 (数研出版)
センサー総合生物 (啓林館)

5) 評価の観点と方法

「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「観察・実験の技能」「知識・理解」の4観点について、定期考査を中心に、課題・レポート提出、授業への参加の様子などを総合的に判断し、評価する。

学期	月	配当時間	単元	学習項目	学習内容	
一 学 期	4	1 7	生命現象と物質	細胞と分子	細胞の構造とはたらき 細胞の構造とタンパク質 代謝とエネルギー 呼吸と発酵 光合成 窒素同化	
	5	1 2		代謝		遺伝情報の発現
	6	1 2	生殖と発生	生殖と発生	遺伝子の発現調節 バイオテクノロジー 遺伝子と染色体	
		2 1	生物の環境応答	動物の反応と行動	減数分裂と遺伝情報の分配 ニューロンとその興奮 刺激の受容 情報の統合 刺激への反応 動物の行動	
		7				
	二 学 期	9	2 8	生殖と発生	生殖と発生	動物の配偶子形成と受精 初期発生の過程 細胞の分化と形態形成 植物の発生
		1 0	2 0	生物の環境応答	植物の環境応答	植物の反応 成長の調節 花芽形成と発芽の調節
1 1						
1 2		1 8	生物の進化と系 統 生物の多様性	生命の起源と進化	生命の起源 生物の変遷 個体群と生物群集・生態系	
三 学 期	1	7	生物の進化と系 統	生命の起源と進化	進化のしくみ	

年間授業計画

	教科名	単位	学年	科目名	担当者氏名
自由選択	理科	2単位	3年	物理	櫻井 一雄

1)この講座のねらい(目標)

「物理基礎」および「物理」で履修した内容について、概念や定義等について確認するとともに、発展的な問題演習を通じて、理解を深めていく。

2)授業の概要

所謂「大学入試センター試験(今年度からは共通試験)」対応の問題集を用いる。

「物理基礎」の「運動とエネルギー」「熱」「波」「電気」の順に取り組み、その後「物理」の「力と運動」「熱と気体」「波」「電気と磁気」「原子」について学んでいく。

3)授業を進める上での留意点

① 授業者として心がけること

- ・定義を大切に、しっかり定着させる。また、組立単位を含め各物理量の単位への意識を高める。
- ・問題を解いていく際の視点と、解法のセオリーを意識させる。

② 生徒に求めること

・「公式に数値を当てはめれば答えが出る」ではなく、「問題で与えられた条件をもとに、シチュエーションをイメージし、どんな視点から問題解決を図るかを考える」方法=自分なりのスタイルを確立すること。

4)教科書・副教材

「チェック&演習 物理基礎」(数研出版)

5)評価の観点と方法

評価 : 定期考査の得点

課題の内容と提出状況

出席状況を含む授業への参加度

} を総合して評価する。

観点 : 「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つの観点に基づくものとする。

学期	月	配当時間	単元	学習項目	学習内容
一 学 期	4	6	物理基礎	運動とエネルギー	等加速度直線運動 力学的エネルギー保存則 熱力学の第一法則
	5	6	力と運動	熱 波 電気 剛体	波の表し方、重ね合わせの原理 オームの法則、電気とエネルギー 力のモーメント、剛体のつり合い
	6	8		運動量の保存 円運動と万有引力	運動量保存則、反発係数 等速円運動、単振動 万有引力
	7	4	熱と気体 波	気体のエネルギーと状態変化 波の伝わり方	気体の状態変化 p-V図 正弦波
二 学 期	9	8	波	音の伝わり方 光	ドップラー効果 光の干渉
	10	6	電気と磁気	電場	静電気力、電場、電位 コンデンサー
				電流	直流回路 半導体
	11	8		電流と磁場	電流が磁場から受ける力 ローレンツ力
12	4	原子	電磁誘導と電磁波 電子と光	電磁誘導の法則 自己誘導と相互誘導 交流回路 光の粒子性 粒子の波動性	
三 学 期	1	4	まとめ演習	問題演習	過去問題、予想問題
	2				
	3				

年間授業計画

	教科名	単位	学年	科目名	担当者氏名
自由選択	理科	2	3	化学	志村 智也

1) この講座のねらい (目標)

入試で化学を必要としている無機化学と有機化学を先取りすることで、大学入試までに理解しておくべき内容を確実に定着させる。

2) 授業の概要

無機物質、有機化合物、高分子化合物というように教科書の途中より始め、私大の入試問題の演習、共通試験問題の演習等を行う。また適宜実験を扱っていく。

3) 授業を進める上での留意点

① 授業者として心がけること

暗記が多いため、丸暗記にならないよう語呂などを用いて生徒にとって関わりやすいものである認識をもたせること。

生徒の想像力の幅を広げるために、多くのイオンのモデル図や日常生活への応用例などを絶やさない。

板書をノートに写すと多くの時間を有してしまうため、プリントによる授業展開やICTを用いた授業展開を組み合わせて進行する。

② 生徒に求めること

副教材を用いた家庭学習の心掛け、授業内容に不明点を残さないようにする。

発展問題まで取り組み、自信が持てるようになるまで演習する。

随時スタディサプリの動画を視聴すること。

4) 教科書・副教材

教科書	化学	実教出版	
副教材	セミナー 化学基礎+化学	第一学習社	
副教材	ビーライン 化学	第一学習社	
資料集	4訂版 サイエンスビュー	化学総合資料	実況出版

5) 評価の観点と方法

評価は「関心・意欲・態度」「化学的な見方や考え方」「観察・実験の技能・表現」「知識・理解」の4つの観点に基づいて、スタディサプリア、学習態度、出席状況、小テスト、定期考査を総合的に判断して行う。

学期	月	配当時間	単元	学習項目	学習内容
一 学 期	4	1 1	第3章 無機化学 1 周期表 2 非金属元素 3 金属元素 4 無機物質と人間生活	1～5 非金属元素とその化合物の性質や反応	<ul style="list-style-type: none"> ・周期表の位置から単体や化合物性質を答える ・非金属元素の単体や化合物の性質と反応について答えられる ・金属元素の単体や化合物の性質と反応について答えられる。 ・金属や無機物質の用途について答えられる。
	5			1～5 金属元素の単体や化合物の性質と反応について 1～3 金属や無機物質の利用	
	6	1 5	第4章 有機化合物 1 有機化合物の特徴と分類 2 脂肪族炭化水素 3 酸素を含む脂肪族化合物	1 有機化合物の特徴 2 有機化合物の分類 3 構造式の決定	<ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物の特徴と分類、化学式使い分けについて学ぶ。 ・元素分析の方法を学び構造式を決定できるようにする。 ・炭化水素の異性体の構造と名称を答えられるようにする。 ・アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステル の性質と製法を答えられるようにする。
	7			1 飽和炭化水素 1 アルコールとエーテル 2 アルデヒドとケトン 3 カルボン酸とエステル	
二 学 期	9	1 0	4 芳香族化合物 5 有機化合物と人間生活	1 芳香族炭化水素 2 酸素を含む芳香族化合物 3 窒素を含む芳香族化合物 4 混合物の分離	<ul style="list-style-type: none"> ・芳香族炭化水素の構造式と名称を答えられるようにする。 ・フェノール類、芳香族アルデヒドやカルボン酸の製法や性質を答えられるようにする。 ・ニトロベンゼンやアニリン等の製法や性質を答えられるようにする。 ・洗剤や染料の特徴や製法を言えるようにする。
	10			1 エネルギーの利用 2～5 洗剤・染料・医薬品・生体	
	11	1 0	第5章 高分子化合物 1 高分子化合物 2 天然高分子化合物 3 合成高分子化合物	1 高分子化合物の分類と特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・高分子化合物の特徴や重合反応について学ぶ。 ・糖類の分類、構造を言えるようにする。 ・アミノ酸の性質や例を挙げられるようにし、タンパク質の性質について学ぶ。 ・核酸の構造上の特徴を言えるようにする。 ・合成高分子化合物の重合反応の種類や構造の特徴、重合度について答えられるようにする。 ・合成高分子化合物やゴムの単量体や重合体の構造式や名称を言えるようにする。
	12			1 糖 2 タンパク質 3 核酸 1 合成高分子化合物の分類 2 合成繊維 3 合成樹脂 4 機能性高分子 5 ゴム	
三 学 期	1 2 3	4	入試問題演習	入試問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・センター試験の過去問、個別試験の過去問の演習。

年間授業計画

東京都立本所高等学校

	教科名	単位	学年	科目名	担当者氏名
自由選択	理科	2	3	生物基礎	岡本優太

<p>1) この講座のねらい (目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年次において学習した生物基礎の学習事項について、総合的な演習をする。 ・ アクティブ・ラーニングの観点から、教えあいの活動を通して、自らの学びを客観視する。 ・ 大学入試共通テスト・個別入試に対応できるような、知識偏重にならない、総合的な生物の学力を身につける。 						
<p>2) 授業の概要</p> <p>授業においては、副教材「つかむ 生物基礎」を用いて、演習を行う。まず学習事項について振り返った後、基礎的な問題の演習に入る。その後、総合的な例題を教員で解説した後に、各自演習に入る。その際には、生徒同士での教えあいの活動をとる。</p>						
<p>3) 授業を進める上での留意点</p> <p>① 授業者として心がけること</p> <p style="padding-left: 20px;">科学的な自然観育成のためにも、入学試験に対応するためにも、知識の暗記をする学習ではなく、それぞれの事柄の理由までしっかりと生徒に考え、納得させることのできるように指導する。また、授業の中から問題演習を豊富に取り入れることによって、生徒の理解の定着を図る。</p> <p>② 生徒に求めること</p> <p style="padding-left: 20px;">授業の中では、「なぜ」という思いを大切にすると同時に、突き詰めてその理由を考えてほしい。その過程でより理解が深まっていく。教員からの問いかけに対しても、真摯に考えることで、より深い理解がなされる。また、授業時間外には、必ず復習を励行してほしい。</p>						
<p>4) 教科書・副教材</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">教科書</td> <td>生物基礎 改訂版 (啓林館)</td> </tr> <tr> <td>副教材</td> <td>つかむ 生物基礎 (浜島書店)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10日間集中 大学入学共通テスト対応問題集</td> </tr> </table>	教科書	生物基礎 改訂版 (啓林館)	副教材	つかむ 生物基礎 (浜島書店)		10日間集中 大学入学共通テスト対応問題集
教科書	生物基礎 改訂版 (啓林館)					
副教材	つかむ 生物基礎 (浜島書店)					
	10日間集中 大学入学共通テスト対応問題集					

5) 評価の観点と方法

「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「観察・実験の技能」「知識・理解」の4観点について、定期考査を中心に、課題・レポート提出、授業への参加の様子などを総合的に判断し、評価する。

学期	月	配当時間	単 元	学 習 項 目	学 習 内 容
一 学 期	4	4	生物の特徴		下記をキーワードとする総合的な演習
	5	6	遺伝子とその働き		生物の共通性、生物の多様性、細胞のはたらき、共生説 代謝とATP、酵素、光合成のはたらき、呼吸のはたらき DNAの構造、遺伝情報とゲノム DNAの複製、体細胞分裂 セントラルドグマ、転写と翻訳のしくみ、 遺伝情報の発現
	6	8	体内環境とその維持		体内環境と体液、恒常性のしくみ
	7	4			
二 学 期	9	6	体内環境とその維持（続き）		引き続き、下記をキーワードとする総合的な演習
	10	8	生物の多様性と生態系		中枢神経と末梢神経、神経系による調節、内分泌系による調節、自律神経とホルモンによる調節、物理・化学的な防御と免疫体液性免疫と細胞性免疫 植物と環境のかかわり、遷移の過程世界のバイオーム、日本のバイオーム生態系の成り立ち、物質の循環とエネルギー
	11	8	総合演習		
	12	4			大学入学共通テストの形式に沿った、生物基礎全範囲を対象とする演習

三 学 期	1	2	総合演習		大学入学共通テストの形式に沿った、生物基礎全範囲を対象とする演習
-------------	---	---	------	--	----------------------------------

年間授業計画

	教科名	単位	学年	科目名	担当者氏名
必修	保健体育	2	3	体育 女子	佐藤めぐみ

1) この講座のねらい (目標)

自ら選択した種目を、他の者と協力してグループ研究及び学習を行うことで、リーダーシップや協調性を養うことをねらいとする。同時に自主性や社会的態度を養い、生涯学習の基盤作りを行う。

2) 授業の概要

- ① 授業は設定された種目（水泳）以外は、年間3期の中で自らが選択した種目に取り組み、各種目にはあらかじめ達成目標が設定されている。
- ② 授業は、グループ研究による学習で、各人が自主的にリーダーの基で協力して展開する。
- ③ グループノートを活用し、班員全員で目標を設定して計画・実施・反省・改善しながら目標を達成していく。
- ④ グループノートの指導については、オリエンテーションや授業前日提出時を通して指導。
- ⑤ 1学期（6月）に体力テストを実施。

3) 授業を進める上での留意点

- ① 授業者として心がけること
 - ① 授業は、グループ学習が中心となるので、ノート記入者（担当者）が十分に下調べを行い、グループ全員に周知徹底できるようにすることが必要である。
 - ② 計画をたてるに際しては、班長を中心として全員で話し合い、目標を設定することが大切である。目標を計画的に系統的にしかも段階的に展開させることを周知させる。
 - ③ 実施にあたっては、時程や用具等考慮し、かつ他のグループとも連携をはかり、全員に理解させて実施させる。
 - ④ ノート記入者のリーダーシップが自主授業の中心になることや、自己の存在を表現させる。
- ② 生徒に求めること
将来に渡りスポーツに親しむ感覚、意欲、知識などを高めてもらいたい。

4) 教科書・副教材

最新保健体育（大修館書店）

5) 評価の観点と方法

運動技術点・出席点・授業態度点・授業計画ノート等を総合的に評価

学期	月	配当時間	単 元	学 習 項 目	学 習 内 容
一 学 期	4	6	球技	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボール ・ハンドボール ・テニス (3種より1種選択)	基礎技能、個人技能を身につける
	5	8	球技		チームワーク、組織連携の強化を図る
	6	8	体力テスト		ゲームのレベルを段階的に向上させる
	7	4	水泳	<ul style="list-style-type: none"> ・課題:75M個人メドレー ・背泳→平泳ぎ→自由形(クロール) 	東京都指定の内容8種目を計測し、カードに記入させる
二 学 期	9	8	水泳	・75M個人メドレー	正しい泳法と泳力をつけ、タイムの向上を図る
	10	8	球技	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール ・バレーボール ・バドミントン ※(3種より1種選択)	総合的な泳力をつける
	11	8	球技		基礎技能、個人技能を身につける
	12	4	球技		チームワーク、組織連携の強化を図る ダブルス、シングルの運営
三 学 期	1	4	球技	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール ・バレーボール ・バドミントン 	ゲームのレベル、リーダーシップ能力を向上させる
	2				
	3				

年間授業計画

	教科名	単位	学年	科目名	担当者氏名
自由選択	芸術	2	3	絵画制作	阿部 真琴

1) この講座のねらい (目標)

- ・ 美術の創造的活動を通して美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好するところを育てる。
- ・ 美術文化についての理解を深め、感性と個性豊かな表現力を養う。
- ・ 自分自身の表現を追求し、自分にしかない感性や価値観、個性を発見する。
- ・ 制作過程や作品を通して、自己理解を促し、他者理解を深める。

2) 授業の概要

- ・ 課題ごとにプリントや資料から基礎的な技術や手順を学習し、制作を進める。
- ・ 生徒が主体的に制作できるよう、生徒自身が表現形式を設定する。テーマの作成、描画材の選択も一から行う。

3) 授業を進める上での留意点

① 授業者として心がけること

- ・ 生徒一人一人の表現を大切に理解し、作品の向上を共に目指しアドバイスをする。
- ・ 独自の表現をより確かなものにするため、自分のペースで進められるようサポートする。
- ・ 生徒それぞれが主体的に制作に取り組めるよう、さまざまな画材の使い方や技法を丁寧に指導する。

② 生徒に求めること

- ・ 自己の可能性や価値観を信じ、期限まで粘り強く作品に向かうこと。
- ・ 造形に親しみを持ち、丁寧に制作をすること。
- ・ 自分だけの表現を探究すること。
- ・ 制作において目指すこと
 - 1 デザイン 自己や社会を見つめ、オリジナル雑誌のデザインとして表現する
 - 2 卒業制作 自身がテーマや表現形式を設定し、主体的に制作する
 - 3 鑑賞 作品の「良い点」を見つけ、自己理解、他者理解に努める

4) 教科書・副教材

- ・ 課題に応じたプリントや資料を用いる

5) 評価の観点と方法

- 観点
- ・ 作品と主体的に関わり、向上を目指して取り組んでいるか (関心・意欲・態度)
 - ・ 造形表現の基礎を身に付け、作品に活かすことができたか (技能)
 - ・ さまざまな画材の基本的な技法を身に付けることができたか (技能)
 - ・ 後かたづけや整理整頓を行い、よい制作環境をつくることができたか (関心・意欲・態度)
 - ・ 自分の表現方法を探ろうとしていたか (表現の工夫)
 - ・ 提出期限を守り、期限まで最善を尽くすことができたか (関心・意欲・態度)
 - ・ 美術作品に親しみを持ち、よさや美しさを味わうことができたか (鑑賞の能力)

方法・毎回の授業に取り組む態度、ファイル等の提出物と作品を総合して評価する。

学期	月	配当時間	単元	学習項目	学習内容
一学期	4	4	デザイン	導入 エディトリアルデザイン オリジナルの雑誌を企画しよう	○ 年間の制作の流れ ○ オリジナルの雑誌を企画し、デザインやコンテンツを考案する プレゼンテーションを行う ①表紙のデザイン ②雑誌名のロゴデザイン ③雑誌の構成（コンテンツ）案 ④雑誌内の見開き1ページ案
	5	8			
	6	8			
	7	4	鑑賞	プレゼンテーション	○ クラス全員にプレゼンテーションを行う
二学期	9	2 2 2	造形表現 (卒業制作))	テーマを決め、表現形式を設定し、作品制作を行う	○自身が表現形式を設定し、主体的に制作する。テーマの作成、描画材の選択も一から行い、制作する ○自分のテーマや制作のアイデアを考える。高校生の自分が表現したいものは何であるのかを追求する ○テーマを表現するために、表現形態、素材、支持体を考え、制作する
	10				
	11				
	12	2 2	鑑賞	制作した作品の発表、鑑賞	○制作した作品を展示、鑑賞する
三学期	1	2	絵画・鑑賞	作品表現を通しての対話	○今まで制作した作品を振り返り、これからの表現活動について考える

年間授業計画

	教科名	単 位	学 年	科 目 名	担 当 者 氏 名
学校必履修	外国語 (英語)	4	3	コミュニケーション 英語Ⅲ	岸谷政浩 北原紀子 河西ひかる

1) この講座のねらい (目標)

- ①英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、社会生活で活用できる英語力を育む
コミュニケーション英語ⅠとⅡで学習した内容をさらに発展させ、語彙力のさらなる向上や内容理解を深める。また、具体的な言語使用の場面を多く設定し、音読練習や英語で自分の意見を話したり書いたりする活動を取り入れる。
- ②大学受験に対応可能な英語運搬能力を育成する
大学共通テストの演習の時間を設定し、早期より対策を図る。大学入試過去問を題材とした長文問題に取り組む。

2) 授業の概要

- ・異文化・比較文化、平和、社会、環境・共生など様々なテーマの英文を読み、情報や考えを理解し、その概要や要点を捉える。
 ー英語の長文を限られた時間内に読み、本文内容を理解する。わからない単語を前後の文脈から推測する。その後、精読する。授業内で理解を深め、英文構成を把握する。英文内容理解に即した問題を解くことで、定着を図る。復習をして、毎回の小テストに臨むことが必須である。
- ・聞いたり、読んだりしたことを、学んだことや経験したことに基づき、話し合ったり、熟考し、意見を聞いてまとめたり、発表する。
 ー外国人講師とTTを週1回行う。英語を話したり、聞いたり、書いたりし、コミュニケーションを取ることができるようにする。ロールプレイで、様々な時、場所、場面での会話を積極的にできるようにする。
- ・単語や教科書の Lesson 毎の小テストを定期的に行い、定着を図る。

3) 授業を進める上での留意点

- ①授業者として心がけること
生徒が英語を使ってコミュニケーションをとる場面をできるだけ多く設定する。英文内容理解を英語の語順のまま理解できるように促す。ワークシートを作成し、さまざまな言語活動が出来るようにする。音読活動を多く取り入れ、英語に対する処理速度を速めるトレーニングをする。
- ②生徒に求めること
英語を学習する目的や目標を明確にし、授業に臨む。復習に励む。課題を怠らず、必ず行う。英語を積極的に使い、表現を意識しながら覚える。単語テストや小テストに目標を持って学習に取り組み、目標達成する努力を惜しまず、またその成果を出すよう意識する。

4) 教科書・副教材

教科書 『LANDMARK English Communication Ⅲ』 新興出版社啓林館
 入試英語長文『共通テスト英語 リーディングオリジナル問題集 TACTICS10』 桐原書店

5) 評価の観点と方法

定期考査4回分の得点・課題等提出物・予習復習への取り組み・単語テスト・確認テストの得点・授業態度(ペア・グループ活動への取り組みなど)を総合的に判断して評価する。

	月	配当時間	単 元	学 習 項 目	学 習 内 容
一 学 期	4	1 2	Lesson 1	健康・科学	カフェインの効果についての説明文を読む。 メインテーマに関することを友だちと話したり、書いたりする。
	5	1 4	Lesson2	人権	血液型についての説明文を読む。 メインテーマに関することを友だちと話したり、書いたりする。
	6	1 6	Lesson3	環境・生物	オーストラリアのユニークな生態とその秘密についての説明文を読む。メインテーマに関することを友だちと話したり、書いたりする。
	7	8	Lesson4	人生・生き方	\$ 10000の価値のある胡椒入れの意味について読み解く。メインテーマに関することを友だちと話したり、書いたりする。
二 学 期	9	1 6	Lesson5	脳科学	バイリンガルの人の脳の構造についての説明文を読む。メインテーマに関することを友だちと話したり、書いたりする。
	1 0	1 6	Lesson6	コミュニケーション	コミュニケーションの70%を占める身体言語についての説明文を読む。メインテーマに関することを友だちと話したり、書いたりする。
	1 1	1 6	Lesson7	社会問題	差別や偏見のない中立的な用語の利点と問題点についての論説文を読む。メインテーマに関することを友だちと話したり、書いたりする。
	1 2	8	Lesson8	生物・科学	自然界で生き残る秘訣について「数学」的観点に立った説明文を読む。メインテーマに関することを友だちと話したり、書いたりする。
三 学 期	1	4		入試英語長文	入試問題演習。

年間授業計画

東京都立本所高等学校

	教科名	単位	学年	科目名	担当者氏名
学校必履修	英語	3	3	英語表現Ⅱ	北原紀子 岸谷政浩 古宮彩花 岩崎清香 西端小百合

1) この講座のねらい（目標）

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。

授業の中で、表現方法や文法事項について生徒同士で考え合うことを通して、文章構造を理解したり、それを用いて正確に文章が書けたり、話せたりすることをめざす。また、過去の大学入試問題より精選された文法・語法問題に取り組むことで、大学入試に必要な知識を習得し、様々な表現を使って英語を使用できるようにする。

2) 授業の概要

習熟度別クラス（ α ・ $\beta 1$ ・ $\beta 2$ クラス）形式で行う。 α クラスは応用力を高めることを目標とした演習中心の授業、 $\beta 1$ ・ 2 クラスは基礎的な内容の確実な習得を目指した演習を行う。

語法・イディオムなどに関して小テストを行うので、自宅で出題範囲を学習しておくよう指示する。さまざまな出題形式に慣れるとともに、解法のプロセスを身に付ける。また、確認テストを適宜行い、繰り返し演習を行うとともに理解度を把握する。

3) 授業を進める上での留意点

① 授業者として心がけること

確認テストを行い、生徒の理解度を常に図りながら授業を行う。生徒が積極的に学習に取り組む姿勢を持つことが出来るよう工夫する。

② 生徒に求めること

小テストに向け、家庭学習に取り組む。また、一度に学ぶ内容が多いので復習も必須である。主体的に学習に取り組むこと。

4) 教科書・副教材

教科書『be English Expression Ⅱ』（啓林館）

副教材『Vintage 3rd Edition』（いいずな書店）『Canvas』（いいずな書店）『Aviator600』（いいずな書店）

『共通テストドリル英語 リスニング 10minutes 改訂版』Z会

『Listening 15』いいずな書店

5) 評価の観点と方法

定期考査4回分の得点・課題等提出物・予習復習への取り組み・小テスト・確認テストの得点・授業態度（ペア・グループ活動への取り組みなど）を総合的に判断して評価する。

学期	月	配当時間	単 元	学 習 項 目	学 習 内 容	
一 学 期	4	3	Lesson 15	関係詞	修飾語を加える③ 修飾語を加える④ 比較を表す	
		3	Lesson 17	副詞節		
		3	Lesson 18	比較		
	5	5	Canvas 第8章	関係詞		
			第9章	接続詞		
	6	5	第10章	前置詞		
		5	第11章	比較		
		5	第12章	主語と述語動詞の一致		
		5	第13章	疑問文		
		5	第15章	話法		
二 学 期	9	5	Aviator Day1	動詞と文の形に関する問題①		
		5	Day2	句・節に関する応用問題①		
		5	Day3	動詞の語法とイディオム①		
	10	5	Day4	名詞・代名詞・形容詞・副詞①		
		5	Day5	動詞と文の形に関する問題②		
		5	Day6	句・節に関する応用問題②		
	11	5	Day7	動詞の語法とイディオム②		
			Day8	名詞・代名詞・形容詞・副詞②		
			Day9	動詞と文の形に関する問題③		
	12	5	Day10	句・節に関する応用問題③		
三 学 期	1	5	共通テスト ドリル英語	直前対策	共通テスト対策、私大対策	